

あすなろ

「明日はヒノキになろう！」

努力は無限！

「授業を大切にしよう!!!」

◆◇◆朝読時の書き取り学習、はじまります！◆◇◆

来週 1 週間は、朝読の時間は本を読みません。

「書き取り学習」を行います。

5 分間集中して、お手本の文章をていねいに書き写します。

ただ、それだけです。



お手本の文章を正しくていねいに書き写していく学習を「視写」ともいいます。

仏教ではお坊さんが経典(お経)を書き写す作業を「写経」といって、仏教の教を学ぶための修行の1つになっています。また、江戸時代の寺子屋で教えられた「読み・書き・そろばん」の「書き」は「視写」の形ですすめられていました。このように、日本では古くから「視写」が行われてきました。近頃、「視写」の学習効果が再評価されています。文部科学省は、この「視写」の取り組みに次の 5 つの効果があるとしています。

1. 集中力をつける。
2. 字が上手になる。
3. 文章表現の技法を覚える。
4. 表記のルールを覚える。
5. 暗唱(あんしょう)や記憶に役立つ。



字を「上手」に書けるようになるには、たくさんの練習が必要でセンスも問われるので、すぐにどうかなるものではありません。しかし、字を「ていねい」に書くのは、意識の問題なので、今すぐにでもできます。字をていねいに書くことを習慣づけられたら、授業に集中して臨むことができ、ノートや授業プリントを使つての復習がしやすくなります。また、書き間違いや読み間違いが減り、計算間違いも減らすことができます。テストの採点でも、読めない字だからといって×にされることもなくなります。

次に早く書き写すことを意識していきましょう。書く作業が速くなればその分、授業やテストに余裕を持って取り組むことができるようになります。ただし、「速く」を意識しすぎて「ていねい」の意識がうすれると、間違いのもとになります。「ていねい」と「速く」のバランスの取り方が大切です。中学生なら、5 分間で 175 字以上を「ていねい」に書けるようにめざしていきましょう。

20 日の月曜日から 5 日間の「書き取り学習」では、5 人の先生方がみんなに読んでもらいたいとおすすめる本の一部を書き写していきます。今回、本を紹介して下さるのは、2 年数学科の氏家先生、2 年 2 組担任・理科の増原先生、2 年 4 組担任・音楽科の牧田先生、2 年 1 組担任・英語科の中橋先生、3 年 3 組担任・英語科の藤田先生です。どんな本を紹介して下さるのか、楽しみです。興味があった本は、図書室や図書館で探してぜひ読んでみて下さい。

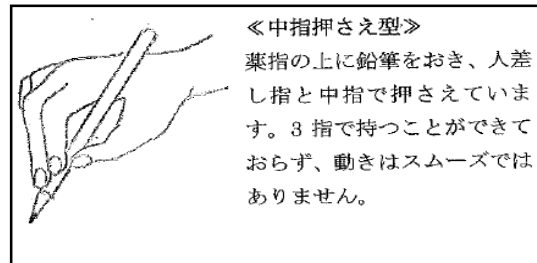
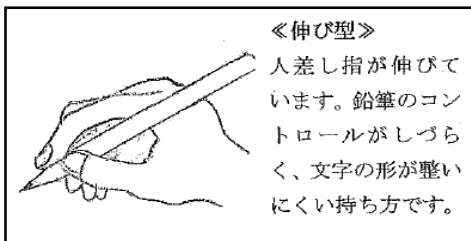
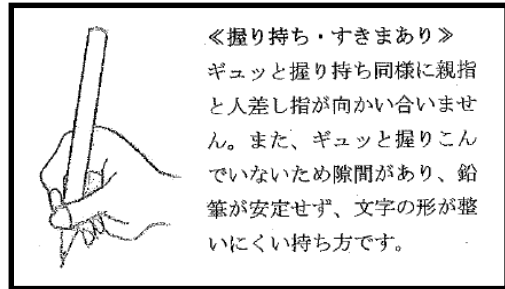
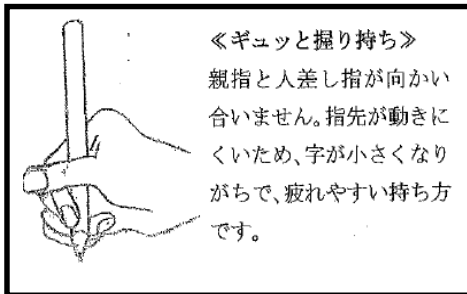
◆◇◆正しい鉛筆(シャープン)の持ち方で学力アップ! ◆◇◆

平成25年と26年に茨木市では、藍野大学・医療保健学部・作業療法学科の先生に、子どもたちの鉛筆の持ち方についてご指導いただきました。

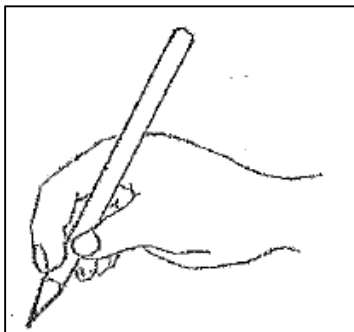
『書きやすい鉛筆の持ち方をするとどうしてよいの?』

教室では、様々な鉛筆の持ち方をしている人がいます。持ち方によって、力が入り過ぎて疲れてしまう、たくさん書くことが苦痛になってしまう、指先がよく見えず目が疲れてしまうなど、学習しづらい状況になることがあります。書きやすい持ち方は文字を書くのに効率の良い持ち方です。

教室でよく見られる、いろいろな鉛筆(シャープン)の持ち方



☆書きやすい鉛筆(シャープン)の持ち方☆



チェックポイント!

その①

親指と人差し指が向かい合っている。

その②

薬指、小指は軽く握りこむことができる。

書きやすい鉛筆(シャープン)の持ち方によって、疲れずにいい文字を書くことができ、学習効果も期待できます。鉛筆(シャープン)の持ち方を正しくしていくには、日ごろから意識することが大切だと言われています。今回の「書き取り学習」をきっかけに、少し意識して取り組んでみてはどうでしょうか。